

平成 31 年度 戦略的 MICE 誘致促進事業
欧州インセンティブ案件の受入体制強化に向けたインスペクション型
人材育成業務

視察評価レポート

1. 実施目的

欧州インセンティブツアーの受入体制強化、沖縄の MICE サービス品質向上に寄与する事を目的として、ドイツ・ケルンに本社を置く国際的な MICE 企画運営会社 teamtravel international GmbH 社の代表であり、MICE のデスティネーションとして日本をプロモーションしているユージ・アンドレアス・ヴェンドラー氏を沖縄本島、宮古島、八重山地域に招聘し、視察(インスペクション)を行う。

欧州インセンティブの観点より、MICE デスティネーションとしての沖縄の優位性や課題、国内・海外他都市との比較を基に、視察評価について本レポートにて公開する。

2. 被招聘者

teamtravel international GmbH 代表 ユージ・アンドレアス・ヴェンドラー氏

3. 視察期間

令和 2 年 2 月 12 日(水)～2 月 16 日(日)

4. 視察先

沖縄本島、宮古島、八重山地域のホテル、レストラン、ユニークベニュー等 MICE 受入施設

5. 視察評価レポート

① 訪問したホテル・会場の評価

ホテルコレクティブ 那覇

ホテルは街の中心部にあり、那覇からツアーを始めやすい立地である。徒歩圏内で、本格的な体験を計画し実現することができる。

260 室という部屋数は、インセンティブグループにとって非常にいい規模感である。「裏口」があり、バスの到着や出発時にグループを送迎できる、よく考えられた作りに

なっている。

30 平方メートルの部屋は、団体客に適している。朝食やバーの場所は、接続・分割でき、とてもよく考えられている。

那覇を拠点とする他のホテルと同様にこのホテルの課題は、美しい砂浜をもつ沖縄ならではの体験をするために来たヨーロッパ人旅行者を、いかにして那覇に留まらせるかである。

ガンガラーの谷

ここは間違いなく沖縄本島のなかでも比類がない、素晴らしい場所の一つである。ほかにはないさまざまなイベントを作り出すことができる。大きな駐車スペースを出発し、美しい庭園や森を通り抜けて入っていくと、人々は沖縄特有の動植物の美しさを実感し、日本でこのような景色を見られることに驚くだろう。

長すぎず、短すぎずの適度な散歩をした後、ガンガラーの谷に到着する。洞窟では、素敵な舞台装置や音楽、照明を状況に合わせて設置できる。周辺は住宅地ではないので、問題はないだろう。

経営陣はあらゆる面で柔軟に対応しようとしており、ミーティングプランナーにとって好都合だ。過去数年間に東京都と沖縄県の連携事業の一環で実施した FAM ツアー（招聘事業）に参加したミーティングプランナーからは好意的な意見が寄せられ、訪問した洞窟はユニークで素晴らしい場所であると力説している。

唯一の欠点は距離である。沖縄北西部にあるホテルに泊まることを想定すると、移動時間は大変長くなる。一部のお客様にとっては、面倒と感じられるだろう。過去の経験からすると、お客様は滞在しているホテルから 30～45 分程の場所で探そうとするものだ。

たとえば、那覇市観光との組み合わせは一つのアイデアかもしれない。ただ、那覇をハイヒールで歩いた後に洞窟を歩くというのは現実的ではないので、ガラやドレスアップしたイベントという選択肢はないだろう。

ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド

このハイアットホテルは外から少し離れた小さい島に立地しており、本当に素敵なリゾートである。オープンして初めてのインセンティブグループ(ホテルのオープン以来初!)を送客したが、これまで仕事をしてきた中で最も順応性のあるホテルの一つといえる。ホテルのロビーは十分広く、リゾート感を醸し出している。

設備に関してはハイアットリージェンシーの基準を十分に満たしている。部屋は広いが、衣服を保管するスペースが足りない(お客様からのご意見)。インスタントコーヒーの代わりに、部屋にネスプレッソマシンがあれば文句なしである。

料理は素晴らしく、シェフのトーマスは本当に協力的で、料理とその哲学を見事に説明し、経営陣は非常にプロフェッショナルに取り組んでいた。私達が提案したプールパーティーも最初は許可されなかったが、話し合いの結果、経営陣が同意してくれた。

悪天候のために、この提案を再考し、ディナー用の全ての料理を建物の中に移動せざるを得なかったが、スタッフの素晴らしい働きによってプライベートディナーはすべての参加者にとって忘れられないものとなった。

問題の一つは、朝食時に非常に混んでいることである。ピーク時の客数に対してスペースが少し狭いかもしいない。また、テーブルセットがないために(たとえば、オレンジジュースのコップなどが原因で)テーブル表面がベタベタする。

日常的にホテルと連携しているが、経営陣はとても適応性があり、迅速に対応し、プランナーのために可能な限り対応してくれた。また、プールのシーズン営業時間についても論議し、特定グループのために変更してくれた。

全般的に、MICE プランナーにとって大変良いホテルであり、非常にお勧めである。

イラフ SUI ラグジュアリーコレクションホテル 沖縄宮古



素敵で隠れ家と形容できる、美しく真新しいラグジュアリーコレクションホテルである。近くの「渡口の浜」ビーチは、MICE グループの特別なイベントを行うのに適した場所となるだろう。

ホテルは、完全貸切または、最大 20~30 室までの小規模な限定インセンティブグループに最適だ。

レストランのスペースと景色は本当に驚くべきものであるが、長期滞在の MICE の開催機会は限られる。このホテルがある伊良部島は他のホテルと同じく周辺の区域は開発が始まったばかりのようだ。

クラブメッド石垣島カピラ



クラブメッドに入って最初に気がつくのは、20 を超える国籍のスタッフがいるとても国

際的な雰囲気の中に、自分の身を置いているということだ。とても若々しく、新鮮な雰囲気が、日本離れした独特な場所を作り上げている。

オールインクルーシブリゾートはヨーロッパではとてもよく知られているが、リゾート内に必要なものがすべてそろっているので、地元経済が活発化しないと批判されることがよくある。

しかし、日本での MICE の団体旅行をセッティングするには、うってつけのホテルである。コストをうまくコントロールできるからだ。料飲やアクティビティのほとんどが無料である。カヌーを借りるとコストが大幅に上がるような、島にある他のビーチリゾートホテルとは雲泥の差である。



従業員はゲストと一緒に食事をするため、通常のホテルに比べゲストと交流する機会も多く、より親しくなる。

ここでの滞在は、沖縄の島々への旅行者の期待にしっかり応えるものになっていて、ヨーロッパでの標準的サービスも提供できている。ヨーロッパからの旅行者にとって間違いなく興味をそそるものだ。

レストランの店舗はうまく構成されている。卓球エリアなど一部のスペースは、もう少し明るくすれば人目もひくだろう。ダイニングエリアでの貸し切りも可能。

多くのホテルと同様に、このツアーでのホテルの客室はとてもリゾート的な特徴や雰囲気をもっており、基準を十分満たしている。



フサキビーチリゾートホテル&ヴィラズ



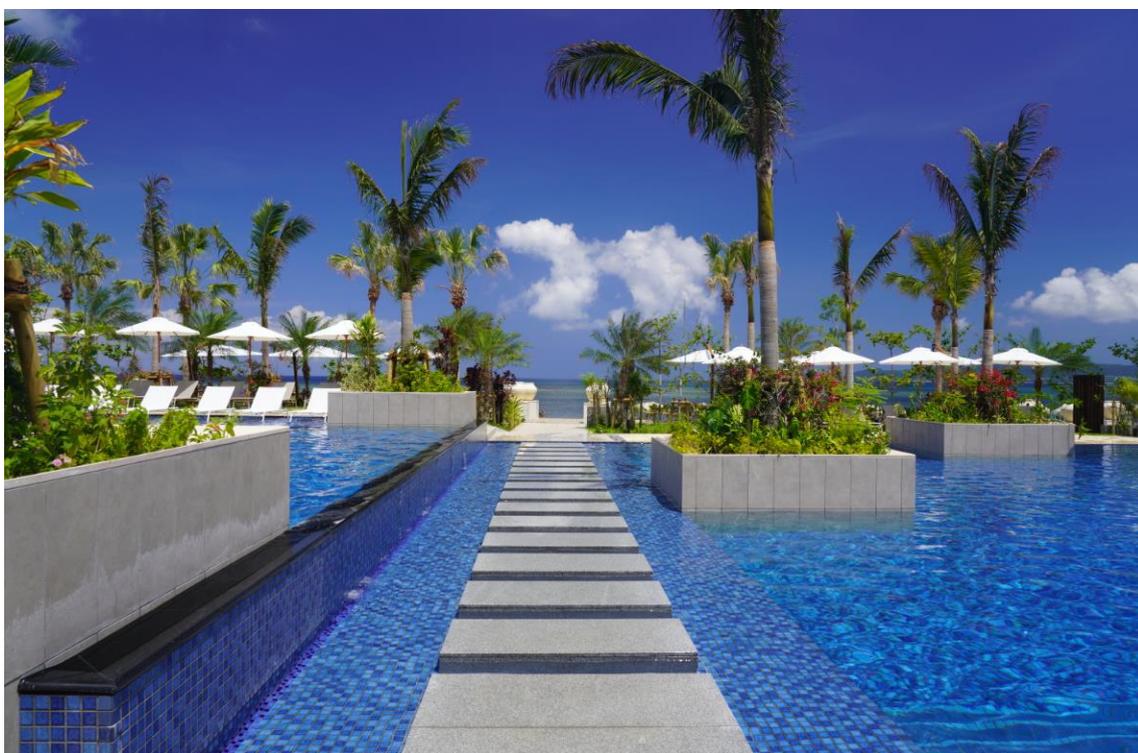
広大な面積からなるリゾートはとても魅力あるもので、MICE グループにとって最も可能性のあるリゾートの一つだ。

新しい北ウィングは、美しく心地いいスペースである。客室は素晴らしい造りで、レスト

ランは十分広く、とても美味しい料理を提供している。ガーデンヴィレッジもお客様の期待にしっかり応えている。

団体がバスで到着する場所、チェックイン専用エリア、アクティビティ用の集合場所などもしっかりある。

ビーチエリアや、プールエリア、バーベキュー・特別ランチ・ディナーに使用できるスペースは、国内の MICE イベントに最適。リゾートの原型ともいえるヴィラユニットもあり、ビーチとプールにわずか数歩で行けるモーリシャススタイルのリゾートを思い起させるような本格リゾートになっている。



新しい琉球・中華料理レストラン、大浴場、スパ、宴会場だけでなく屋内プールもある新しい「ウェルネスセンター(エイトスターズヴィレッジ)」は、ゲストが期待するものをほぼ満たすものだ。

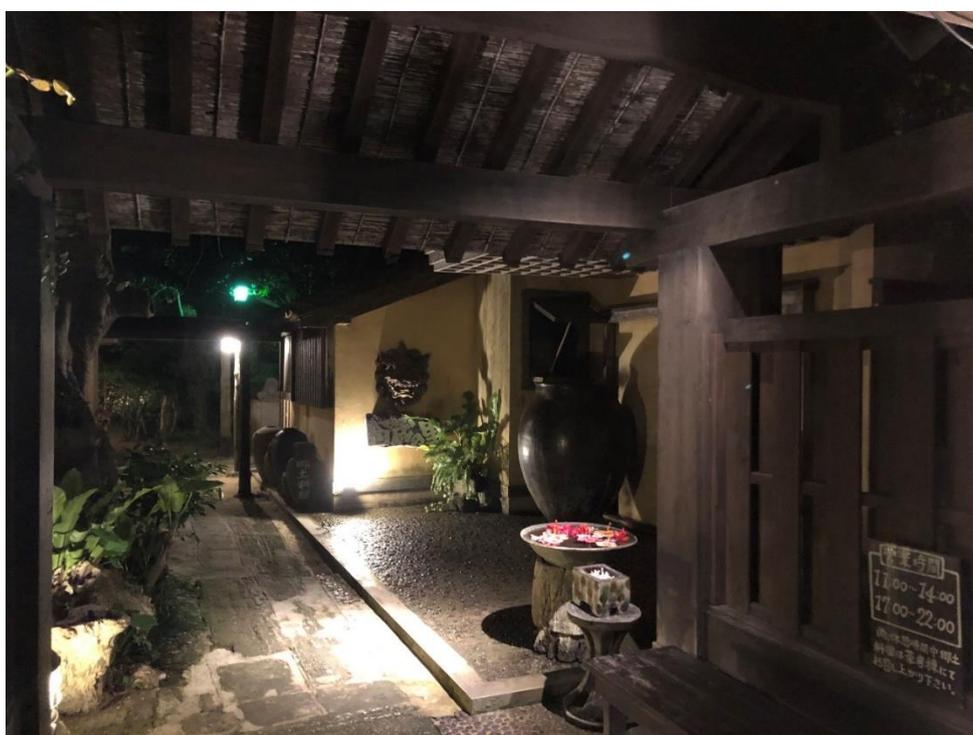
石垣市の中心からわずか数分の距離にあるため、周辺には夜の娯楽が多くあることも良い。

MICE プランナーにとっても、特定のウイングを独占できることは好都合だ。同じ標準の部屋はいくつあるか？団体客の準備をするときにこのような質問が必ず出てくるだ

ろう。

このホテルは、沖縄・石垣で MICE グループの可能性が最も高いホテルの一つだ。海外からの旅行者を増やすために、セールス&マーケティングがこの市場セグメントをどのように推進していくかは興味深い。勝算は高いだろうが、リゾートは主要な国際的ホテルブランドに属していないため、MICE 関連の展示会で市場を浸透させていく必要がある。

舟蔵の里



フサキビーチリゾートとうまく組み合わせ、わずか 5 分の移動でゲストに本物のローカル体験をしてもらえる。夕食時には、居心地のいい居酒屋の雰囲気の中で沖縄の音楽とダンスを楽しめ、上手に調理された質の高い料理が提供されている。地元の沖縄料理と日本の居酒屋が組み合わせられており、実にさまざまな食材と味を楽しめる。

また、大人数の団体用の外部イベントができるスペースもある。食べ物は居酒屋・和風・沖縄料理がうまく組み合わせられたもので、いろいろな味を味わえる。

ここはまさに MICE プランナーが求めている場所で、ほとんどの MICE コンセプトに合うだろう。

ANA インターコンチネンタル万座ビーチリゾート



素晴らしい場所にあり、以前から有名なホテルである。経営管理者は、アクティビティや MICE に関連する要望に関して非常に柔軟に対応しているようだ。周辺のビーチやレストランが、ホテルのサービスをさらに充実させている。「サルヴァトーレ・クオモ」でさえここに店をかまえている。会議を開催できるエリアが数多くあり、小規模な限定イベント用にホテルのポートが用意されている。

私の見たところ、ヨーロッパからの MICE 旅行者には、クラブインターコンチネンタルルーム(92 室)が最適だ。



このホテルは、IHG ホテルグループのメンバーとしての利点を活用している。

「金額に見合う価値」を評価することが最も重要であるため、スタンダードルームの料金は確認すべきだろう。



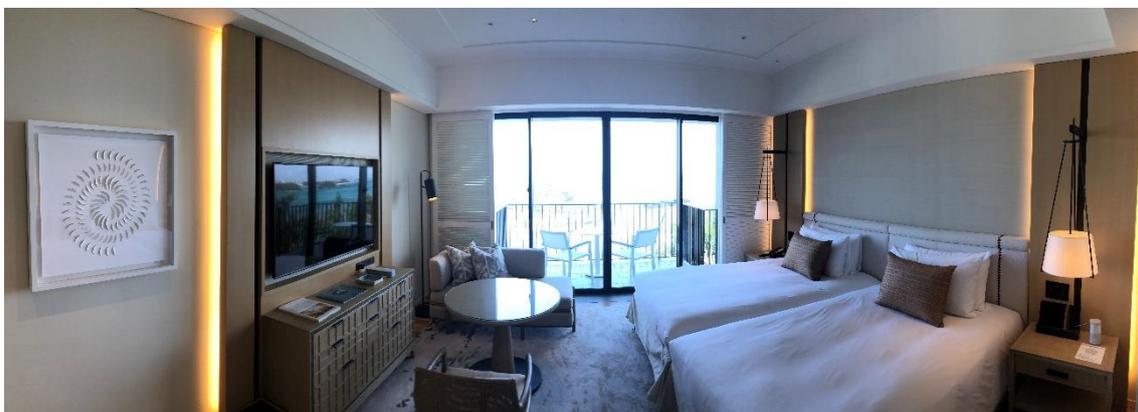
ハレクラニ沖縄



2020年、沖縄本島で最も印象的な物件の1つだ。LHWグループのメンバーとして、このホテルはネットワークとセールス&マーケティングを活用し確実に利益を得るだろう。

このホテルが小規模および大規模なMICEグループを受け入れる可能性はあるが、会場の大きさはもちろんその数も非常に限られているという弱点がある。明らかに、ターゲットは団体旅行者ではなく、ハワイやLHWネットワークのホテルを知っている経済的に余裕のある個人旅行者だ。

それぞれの建物にある客室は、ゲストの期待以上だ。最低 50 平方メートルはあるこれらの客室は、島で最も広いだろう。イベントを開催する際、同水準の部屋をより多く団体に提供できるのは素晴らしい。



ここで団体客を受け入れる場合、プール、ビーチなどで特別なイベントを開催するのは難しいかもしれない。今の段階での評価は難しいが、スタッフは国際的水準でしっかり研修、教育を受けているようだ。設備は全て揃っている。

このホテルは、MICE の旅行者が望むものを提供できる素晴らしいホテルである。施設が大きすぎるという人もいるかもしれないが、大きいからこそホテルが提供できる料理、イベント、アクティビティに関して多様な可能性が生み出される。そのため大きさを欠点として捉えるべきではないだろう。

万国津梁館



この場所の主な独自の強み(USP)は、間違いなく 2000 年の G8 サミットである。セールス&マーケティングがこのことを取り上げているのはもちろん、壁に常設で G8 サミットの写真が飾られている。スペースは用途に合わせて使用できる。ブセナテラスと組み合わせれば、日光が入るこの施設は、小規模なイベントや大規模なイベント、カンファレンス、会議、祝賀会などに使用できる間違いなく素晴らしい場所だ。

オープンスペースはとても素敵で、限りなくさまざまなイベントを屋内で開催できるだろう。屋内外での車のプレゼンテーション(展示)できるうえ、ガラディナーも問題なく開催できる。

バスは会場の玄関口で簡単に入出りできる。セキュリティに関しても、半島にあるため、安全性を確保しやすい。

ザ・ブセナテラス



正面玄関に到着すると、ロビーを通る心地いい風と、素敵な東洋の雰囲気を作り出すピアノの生演奏で、リゾートホテルに到着したことを感じられる。

広いロビーエリアでは、団体旅行者専用のチェックインエリアや、ホスピタリティデスクを提供でき、さらには、完全貸し切りができる場合に限られるが、パーティーを開くこともできる。

ホテルのスタッフはしっかり研修を受けているようで、手厚いもてなしを感じる。スタッフはあらゆる場面で本当に喜んでサポートしてくれて、ホテルの団体旅行者の扱いは問題なさそうだ。

ホテルには多くの飲食店があり、ゲストはさまざまな種類の料理を楽しむことができる。ホテルでは上質の食事が提供されている。美味しい懐石メニューは、MICE のゲストが日本・沖縄に来たら間違いなく試してみるべきものだろう。レストランには地ビールもあり、地元に触れることができる。地元の要素を含めているのは素晴らしい。

ホテルでは、いくつかの娯楽アクティビティと特別な「アフターMICE プログラム」を提供している。

クラブルームはとても美しく装飾されており、紛れもなく素晴らしい隠れ家だ。



半島にあるため、小さな店やレストランもあるバニアンビレッジはもちろん万国津梁館へも移動しやすい。

ザ・リッツ・カールトン沖縄



庭園付きで広いスペースをもつザ・リッツ・カールトン沖縄は、小ぶりなホテルだが非常に柔軟な管理体制でさまざまなセッティングが可能だ。常連ゲストの迷惑にならないよう、ロビーはある程度までしか使用できないが、任されたことに関してホテルが精一杯柔軟に対応しているように見える。

ビーチから少し離れた丘の上にあるため、ホテルがビーチリゾートとして提案されることはないだろう。

客室はしっかり手入れされており、リッツ・カールトンスタイルをよく表している。

ここは、必ずしもビーチを求めている貸し切りや小規模のインセンティブグループに最適だ。ゴルフ場が隣接していることに注目するゲストもいるかもしれない。

百年古屋 大家(うふや一)



大家(うふや一)は、古民家とさまざまな建物を組み合わせた本当に素敵な施設で、それぞれのエリアで規模に応じた施設を利用できる。メインの中庭と繋がっている 5つの「古民家」は、屋外イベントに最適な場所で、状況に合わせた代替プランも可能である。

本格的な沖縄のイメージにぴったりの場所なので、ここでイベントを開催する価値はある。沖縄本島に来る団体客は、ここ独自の魅力を感じられるだろう。日本人客だけでなく外国人客も、この雰囲気やここで繰り広げられる幅広いエンターテインメントを楽しめるはずだ。

掘りごたつはもちろん小さな椅子も用意されているため、外国人も問題なく座れる。

大家(うふや一)は人気の観光地であるため、特別なゲストを迎える際はバスが中庭エリアに直接入ることができる。



ヒルトン沖縄北谷リゾート



団体客がカンファレンスや会議だけのために利用するには、確かに素晴らしい場所だ。ヒルトン沖縄北谷リゾートは世界中から訪れる顧客の要求に応えるワールドスタンダードを満たしている。



ホテルには、MICE グループの参加者全員の期待に応えてくれるだけの、順応性や国際的な感覚、特別なイベントのための素晴らしいテラスやガーデンスペースやプールスペースがある。追加の客室が必要な場合には、隣接するダブルツリーby ヒルトン沖縄北谷リゾートの客室を用意することも可能だ。

ホテルのテラスエリアやオーシャンビューの客室からは、ヨーロッパで人気のある MICE 訪問先である地中海のマルタ島を思わせる美しい海の絶景が広がる。したがって、ホテルのセールス&マーケティングの狙いが MICE イベントを開催することであれば、成功する可能性は高いだろう。ただ、過去の MICE 旅行者から、ホテルがビーチに直結していないことに驚いたという意見があったので、「ビーチリゾート」ではないと

いうことは強調しておきたい。

イタリア料理「コレンテ」では、地元食材を活かしたイタリア料理をペアリングワインと一緒に提供している。ワインセレクションにおいては、上質な味わいにこだわっているため、沖縄の食材を使用したイタリアンとワインとの相性は素晴らしい。朝食には、ビュッフェレストラン「スリユン」にて和・洋・琉など国際色豊かな料理がビュッフェスタイルで用意されている。料理の数は100種類以上にも及び、どれから取るか迷うほどだ。世界レベルのヒルトンスタンダードに見合う料理が提供されている。



② 訪問したエリアの評価

沖縄本島

沖縄本島は、至る所に本当に素晴らしいエリアがある。ガンガラーの谷は必見のスポットだ。また、「国際通り」や「商店街」などの独特の雰囲気をもつ那覇も見逃せない。美ら海水族館はヨーロッパのゲストにとってとても印象に残る場所だ。

外国人が初めて沖縄本島を訪れたときに感じがちなのは、期待していたものとは全く違うということだ。エメラルドブルーとターコイズの海、そして美しい砂浜や島のイメージが美しい写真によって宣伝されている。しかし島にあるビーチはどこも小さく、特にホテルのすぐ側にある場合はそれが顕著だ。プランナーはファムトリップから戻ると、素敵な写真はどこで撮られたものなのだろうと疑問を抱く。

沖縄について人々がもっているイメージは、グーグル検索で表示された「Be.Okinawa」の写真だろう。ほとんどの写真は、沖縄本島で撮影されたものではない。写真を見て渡嘉敷島での MICE イベントを要望したクライアントもいる。しかし、周辺離島を本島と組み合わせることは、ホテルなどのインフラを考えると現実的ではない。

一つの問題は本島の形状が長いいため、移動時間が非常に長くなる可能性があることだ。交通量は驚くほど多いため、空港送迎は時間がかかると考えておく必要がある。

例えば、ガンガラー谷でガーラパーティーや表彰式、カクテルレセプションを開催するというのは素晴らしい計画だが、ホテルの場所によっては片道 1 時間もかかるため、これが「NG」というクライアントもいる。美ら海でイベントを開催する場合、移動時間が長いうえに、リゾート周辺でできることを多数準備しておく必要がある。

宮古島

宮古島は特に浜辺に美しいエリアがある。宮古島には、田舎や歴史、伝統などが残っており、日本の国内市場においても、発展し過ぎていないというのが魅力となっている。

宮古島への短期間の素敵な逃避旅行は最近特に日本人に人気がある。日本の都市にはないものが見つけられるからだ。一方で、素敵なお店があるものの、宮古島の「街の中心」はかなり小さく、MICE プランナーにとってここでの可能性は限られている。

石垣島

石垣島は西表島と竹富島に隣接しているため、魅力的なビーチアクティビティのプログラムを作成できる。訪れた 3 つの島(沖縄本島・宮古島・石垣島)のなかで、石垣島は最も楽しく、最も沖縄のイメージに近い。

石垣の街には見どころがたくさんある。街は多くのビーチリゾートに隣接しており、移動に時間がかからないため、夜の娯楽も活気があるようだ。

日本本土の主要都市から石垣島への直行便があるのでアクセスがよく、沖縄本島での乗り換えは必ずしも必要ない。

石垣島は小さな空港からスタートしたので、魅力的な雰囲気がある。MICE プランナーに素敵なストーリーを作成するいい機会を与えてくれる。

③ 要旨

沖縄は、MICE の人気ある旅先になる可能性を秘めている。各ホテルはより多くの MICE ビジネスの獲得に力を注いでおり、地方自治体は MICE の促進に非常に高い関心をもっている。また、地元のサプライヤーもとても順応性があり、ゲストのニーズに応えようとしている。

さまざまな要素の組み合わせで MICE プログラムの成功があることを認識する必要がある。それぞれの可能性が絡み合うことで、創造的で魅力的な MICE プログラムが作られる。

ミーティングプランナーは、イベントを成功させ忘れがたいものにするための「指針」と「ものがたり」を探している。

ホテルや会場やアクティビティ自体が必ずしも重要なわけではなく、サプライヤーが共に作り出す独自の体験が大事だということだ。それらの構成要素の相互作用が生み出すポテンシャルにより、MICE プランナーは多様な選択肢を得ることができる。多くの展望があるほどプランナーはより良い計画を作り出せる。

小規模・中規模・大規模のイベントや大きなカンファレンスやイベントに対応し、増加する需要に応じて大人数に料理を提供できる会場が必要だ。舞台設備や、音響・映像、イベント会社、スペース変更の柔軟性が不可欠である。

MICE の計画には会場の柔軟性が必要だ。これにより、独創的なイベントプランナーは、ゲストの夢を表現し、素晴らしい思い出を作り出すことができる。

リピーターは目的地への関心が高いので、さまざまな旅行に誘ういいターゲットになる。沖縄は、新しい呼び物、サービス、インフラ支援を提供し続けることで、新しいゲストとリピーターに新鮮で独創的なものを見せる必要がある。

これにより、MICE の予約者、参加者、代表者にとって非常に魅力ある目的地になるだろう。MICE 用の設備を備えたホテルには多くの可能性がある。

最も重要なことの一つに飛行機でのアクセスがある。台湾、韓国、中国、香港、シンガポール、タイからの直行便があるので、これらの地域から来ている団体が多い。これは飛行機でのアクセスが最も重要であることを示している。ホテルコレクティブを見ると、台湾も沖縄がもつ潜在性を認識し、この地域に投資していることが分かる。

沖縄に到着した欧米人が、その後日本本土を経由して、たとえばヨーロッパへ帰る飛行機に乗るとするのはそれ程簡単ではない。沖縄本島から早朝に出発しなければならないからだ。石垣島や宮古島はさらに難しく、東京か大阪で一泊する必要があるが、MICE 旅行者の多くはこれを良しとしない。

MICE 事業を拡大しようとしているもう一つの地域は札幌だ。この地域がどのように発展しているかを見るのは興味深い。ヨーロッパとの初めての乗り継ぎ空港としてヘルシンキから札幌への直行便が開始されており、MICE 事業への影響を見ることができると。これにより、札幌は日本における MICE のセカンドデスティネーションとして、新しい MICE ハブのイメージを確立する絶好の機会を得るだろう。

航空会社に関して、沖縄への直行便がないことの最大の論点は、利益の組み合わせがないことにある。つまり、今は観光客だけが飛行機を利用しておりビジネス旅行者の利用が少ないが、通常航空会社には両方が必要だということだ。ヨーロッパからの直行便があれば、MICE のビジネス旅行者数が増えるのは明白だ。

現在、飛行機の乗り継ぎは大きな弱点であるため、東京/大阪-沖縄など、都市との連携をとっていくのは確かに理にかなっている。東京/大阪ではビジネス、沖縄では娯楽/リゾートということだ。

プーケットの状況と比較してみよう。プーケットは観光地だが「ヤシの木と砂浜」でビジネスを行うという素敵な印象があり、魅力的な MICE の行き先として確立している。プーケットへは多くのフライトが到着する。バンコクで会議をした後、意欲を高めるためにプーケットで何日かを過ごすビジネス旅行者もいる。

プーケットのコストパフォーマンスは傑出している。リーズナブルな料金で素晴らしいホテル、数多くのアクティビティ、特別なイベントを楽しめる。沖縄でカタマランのために支払う価格は、プーケットでの価格の約 2 倍である。にもかかわらず、アンダマン海のプライベート・アイランドでの昼食付きの日帰り旅行や観光の方がずっと魅力的だ。

クライアントから「半額でプーケットに行けるのになぜ沖縄に行くのか？」という質問を受けた。ベトナムとカンボジアへの旅行と同じ予算で、東京・沖縄旅行を提供したいという代理店もある。彼らは、東南アジア諸国と同等のトップクラスのホテルとサービスを日本でも期待していることもあり、日本の状況をしっかりと説明していく必要がある。

そこで、どのようにして沖縄が外国人観光客を惹きつけ、他の東南アジア諸国と競争できるかを考えなければならない。沖縄に関する明確なイメージを作り出す必要がある。これまで沖縄と言えば「砂浜とエメラルドブルーの海」だったが、他の観光地よりも魅力的な点について考える必要がある。実際には、あるとしても小さなビーチしかないホテルがほとんどで、バーベキューパーティーなど特定メンバーだけのイベントが規定で許可されていないことも多い。今後はある程度の柔軟性が必要になってくる。沖縄は可能な限りのことを試みており、素晴らしいホテルが柔軟性をもって意欲を見せていることを強調する必要がある。

ニセコの場合、モットーは第2のダボスになることだ。つまり、ニセコは所得の多い富裕層の顧客をターゲットグループに定義したのだ。

沖縄旅行の参加者は会議やイベントの後、美しいビーチと景色を楽しみ美味しい地元料理に舌鼓をうち素晴らしい文化とおもてなしを体験することを期待している。

したがって、次の質問に向き合い、解決策を見つけることが重要だ。

- 沖縄が売りにしているイメージは何か？ 沖縄に来る外国人が期待していることは何か？
- 東京または大阪での3日間の会議の後、3~6日間のビーチリゾートに行きたいという顧客に、どのようなプログラムを提案できるか？
- 東南アジアのリゾートではなく、なぜ沖縄/宮古島/石垣島で延長滞在していくのか？
- 沖縄/宮古島/石垣島に関して、アジアの他のリゾートと違う特別な点は何か？ 価格、サービスのレベル、それとも自然？

MICEの旅行者は、個人またはレジャー目的の団体旅行ではできないことをしたいと思っていることを、頭に入れておくことが大切だ。

個人的な経験からいうと、沖縄は日本の大都市よりもはるかに柔軟性がある。沖縄の人々がいい意味でリラックスしていることが理由かもしれない。

沖縄は全体像を描き、さまざまなアクティビティや、レストラン、ホテルという選択肢をプランナーに提示する必要がある。

沖縄は、ホテル、会場、アクティビティ、サプライヤーの全てにおいて、体制が整っている。後は、何ができるかという明確なイメージをゲストに伝わるように提示する必要があるだけだ。

関係者全員が協力すれば、沖縄はこうしたことができると確信している。沖縄にはビーチや美しい海以上に素晴らしいものがたくさんあるのだから、これをプランナーに伝えていけばいい。一般的な日本人のイメージとは全く違う「日本人」の側面など、沖縄の魅力はもっとある。沖縄には、日本本土と対照的で見逃してはならない大きなチャンスがある。

以上